



日清食品ホールディングス

<https://www.nissin.com/>
所在地：
〒160-8524
東京都新宿区新宿 6-28-1

概要

持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理など

事業内容

- 即席麺の製造および販売、チルド食品の製造および販売、冷凍食品の製造および販売、菓子・シリアル食品の製造および販売、乳製品・清涼飲料・チルドデザート等の製造および販売

課題

- 海外デザイン事務所とのファイル共有
- 社外デザイナーとのコンセンサスの深化
- デザイン業務の効率化

ソリューション

Creative Cloud グループ版

デスクトップアプリ

- Adobe Illustrator CC
- Adobe Photoshop CC

モバイルアプリ

- Adobe Capture CC
- Adobe Photoshop Sketch

サービス

- Typekit
- Adobe Creative Cloud Libraries



日清食品ホールディングス株式会社

共有フォルダやモバイルアプリを 社外デザイナーとのコミュニケーションツールに活用

日清食品ホールディングス株式会社は、日清食品グループの持株会社。同社デザイン室は経営直下の部署として、国内外グループ各社の製品パッケージを一元的に統括する役割を担っている。一人当たり年間100種類の商品を担当するデザイン室は、Creative Cloudの各種機能を社外デザイナーとのコミュニケーションツールとしても活用することで、さらなるデザイン品質向上と業務効率化の実現を目指している。



導入メリット

スムーズなファイル共有で 50%時短



共有フォルダの活用で、世界のデザイナーとのスムーズなファイル共有と50%効率化を実現

出張先でも多様なフォントが 選択可能に



Typekitにより、モバイル環境で使用できるフォントが大幅に拡張

スキャン業務が1/2に省力化



Adobe Capture CCにより、手書きラフ原稿の取り込み作業の手間が半分に

コミュニケーションの深化



Adobe Photoshop Sketchにより、短時間でもビジュアルによるコンセンサスを実現

■世界の食文化を革新した、食のイノベーター

お湯を注ぎ3分間待つだけで、いつでもどこでも、温かい料理が食べられる「カップヌードル」の登場は1971年のこと。それから半世紀近くが過ぎた今、カップヌードルは世界80カ国以上で販売され、日本だけでなく世界の食文化に大きな革新をもたらしている。日清食品ホールディングス株式会社は、カップヌードルを世に送り出した日清食品を中心とする企業グループの持株会社。デザインルーム主任デザイナーの山本 宏紀氏は言う。

「世界で初めて即席めんを開発したことでも知られる我々は、なによりもイノベーティブな精神を大切にしています。例えば、今年度のカップヌードルのタグラインは、『Crazy Makes the Future』。やり過ぎが未来を拓くというフィロソフィのもと、商品開発でも広告でも、世の中を驚かせるような挑戦を続けています」

インターネットで「謎肉」と呼ばれるダイスミンチを大幅増量した、期間限定商品の発売はその一例。グループを象徴する存在であるカップヌードルの挑戦は、グループの企業文化そのものを表していると言えるだろう。

また、新しいスタイルの社員食堂「KABUTERIA」を東京本社にオープン。「クリエイティブガレージ」という空間コンセプトと、「株価連動型社員食堂」というイベントコンセプトをあわせ持っており、社員1人1人が「クリエイティブな発想で新たなアイデアを生み出す」と共に「企業価値向上のために何ができるのか」を考えるという、「食」の可能性を追求する日清食品グループならではの取り組みだ。

■世界に展開するグループ企業のパッケージデザインを担う

即席めんから飲料、冷凍食品に至るグループ企業の商品パッケージは、国内外問わずに同社デザイン室が一元的に手掛けている。在籍するデザイナーは9名で、年間一人当たり100種類前後のパッケージデザインを担当してい



デザインルーム 主任 デザイナー
勝山 直美氏



デザインルーム 主任 デザイナー
山本 宏紀氏



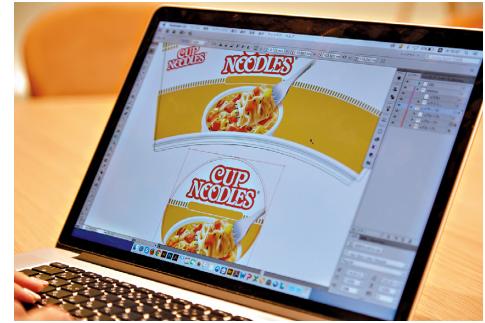
デザインアイデアが思い浮かんだら、Photoshop Sketchでスケッチ。デザインイメージをダイレクトに伝えられる有効なコミュニケーションツールとして活用している

るという。デザイン室 主任 デザイナーの勝山 直美氏はこう説明する。

「デザイン室では、グループ企業が国内外で発売する商品パッケージに加え、打ち合わせスペースのインテリアデザインなど、ブランディングに関するあらゆる事柄を手掛けています。もちろん一部は社外のデザイン会社の協力を仰ぎますが、海外の商品パッケージデザインも含め、国内外で販売される商品の場合、カップ麺のパッケージデザインの約7割は、社内デザイナーが自分の手で行います」

パッケージを商品の顔、企業の顔と捉える同社において、デザイナーの役割は極めて大きい。必ず商品を試作段階から試食してデザインへ落とし込み、パッケージデザインのプレゼンは、その都度、デザイナー自身が社長に対して行っているという。デザイン品質の向上とともに業務の効率化が強く求められるデザイン室を支えてきたのが、PhotoshopとIllustratorという二つのデザインツールだ。同社が、長年使い続けてきたCreative SuiteからCreative Cloudに移行したのは2016年6月のことだった。Adobe製品の最新バージョンを使う、海外デザイン事務所とのデータのやり取りをよりスムーズに行いたいと考えたことが移行の第一の理由だったといふ。

「北米や欧州のデザイン事務所の場合、Adobe製品の最新バージョンを導入していることが一般的です。デザイナー間のファイル共有を常に同一バージョンで行いたいと考え、Creative Cloudへの移行を決断しました」(勝山氏)



Creative Cloud の各種機能を活用することで、さらなるデザイン品質向上と業務効率化の実現を目指している

■Creative Cloudの「共有フォルダ」機能で、スムーズなファイル共有を実現

国内外のデザイナーと協力してパッケージを作り上げていく過程で、ファイルのやり取りが必要になる。これまで同社は、外部のオンラインストレージサービスを利用してファイルをやり取りしてきたが、それはセキュリティ面で問題があるのが実情だ。それもあり今後は、Creative Cloudの「共有フォルダ」機能を活用していく考えだ。

「そのメリットは大きく二つあります。一つはセキュリティが確保できる点。もう一つは、共有したフォルダに上書きしていくことで、新たにファイルを送りなおす手間が省ける点です。修正後、『上書きしました』とメールを送るだけで済みますから、海外のデザイン事務所とコラボレートする上でうってつけの機能ですね。このサービス利用でこれまでより50%くらい時間短縮が図れています」(勝山氏)

■TypekitがノートPCのフォント環境を大幅強化

約1,000書体のフォントサービス、Typekitも勝山氏が高く評価するものの一つだ。

「出張先で即座にイメージを具現化したいとき、ネックになるのはノートPCのフォント環境です。そうした際にTypekitを使うことで、フォント選択肢を大幅に拡張することが可能になります。フォント次第でイメージは大きく変わりますから、本当に助かりますね。実は先日も、アメリカ出張中にTypekitを使ったデザイン提案を行っているんですよ」

またペントタブレットやタッチペンの普及に対応する形で、タッチUIの大幅な見直しが図られた点もCreative Cloudの特長の一つだ。

「以前からペントタブレットを日常的に使っているのですが、手書き入力の感覚は、CS6とは明らかに違いますね。手書き入力によるクラフト感というべきものがより表現しやすくなつたと感じています」(勝山氏)

■モバイルアプリの活用で50%の業務効率化を実現

Creative Cloudが提供する各種モバイルアプリを積極的に活用する点も同社の特長だ。

「手書きしたラフ原稿の読み込みにCapture CCを利用しています。手書きロゴをデザインにあてこむと、必ず新たなアイデアが生まれます。これまで、そのたびに複合機まで足を運んでスキャンしていましたが、Capture CCを使えば、その場で取り込むことが可能になります。手書きラフ原稿の取り込み作業の手間は、半分以上省力化できているはずですよ」(山本氏)

勝山氏は、ドローイングツールPhotoshop Sketchをコミュニケーションツールとして活用している。

「現地デザイナーとの対面コミュニケーションは、海外出張中の限られた時間内にしか行えません。その時間をより有効に使うため、Photoshop Sketchを活用しています。デザインイメージは言葉だけでは伝わりませんが、Photoshop Sketchを使えば、視察に訪れたスーパーで立ち話をしながらでも構図やエレメントの配置をダイレクトに伝えることができます。また、単純なメモと違って色が乗せられる点も優れている点です。Photoshop Sketchによるコンセンサスの深化は、手戻りの減少にも確実につながっていますね」

今後同社デザイン室では、社外デザイナーとの情報共有にCreative Cloud Librariesも積極的に活用していく考えだ。デザイン品質のさらなる向上とともに、業務の効率化が強く求められる同社デザイン室をCreative Cloudはこれからも力強く支えていくに違いない。

Adobe Creative Cloud
グループ版に関する詳細
<http://www.adobe.com/go/cct>



アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/
Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com

Adobe, the Adobe logo, Creative Cloud, Illustrator, and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries.

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, Adobe PDF logo, and Reader are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.
© 2016 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.